

平成29年度 行政歯科保健担当者研修会

基本的事項に関する今後の課題と展望(総論)



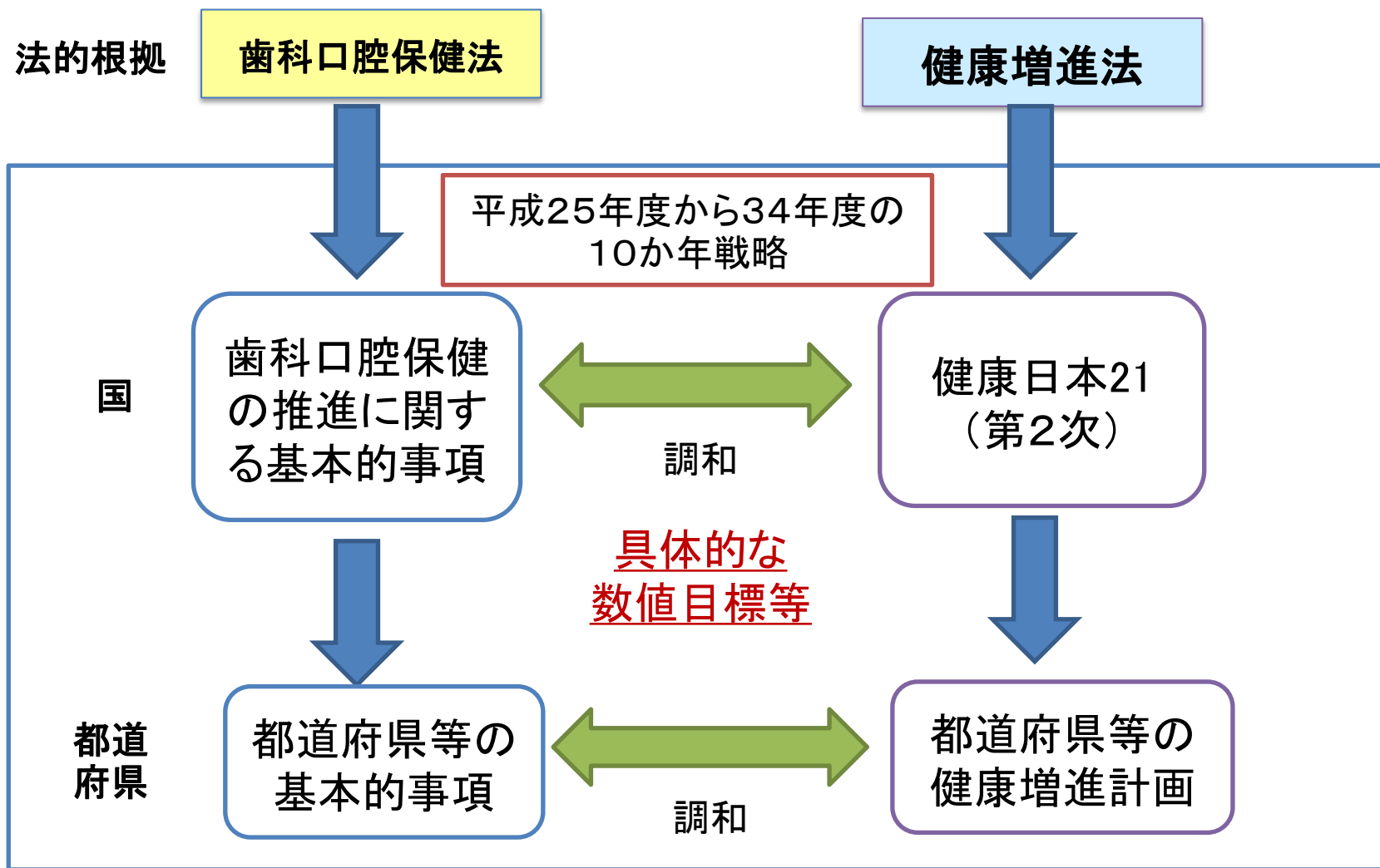
国立保健医療科学院 国際協力研究部長

三浦 宏子

(miura.h.aa@niph.go.jp)

平成30年3月8日 PM

国民健康づくり対策との調和に基づく歯科口腔保健



歯科口腔保健の推進に関する基本的事項と 健康日本21(第2次)「歯・口腔の健康」の**共通事項**

1. 超高齢社会を踏まえた口腔保健に関する目標

- 口腔機能の維持・向上に関する目標の設定
- 歯の喪失:40歳代からの目標設定
- 歯周病:高齢期での目標設定

2. う蝕有病状況の地域格差の縮小

- 歯科領域での健康格差の縮小を図る

3. 定期歯科検診を基盤とした歯・口腔の健康づくり

- 重症化予防の観点を踏まえたアプローチ

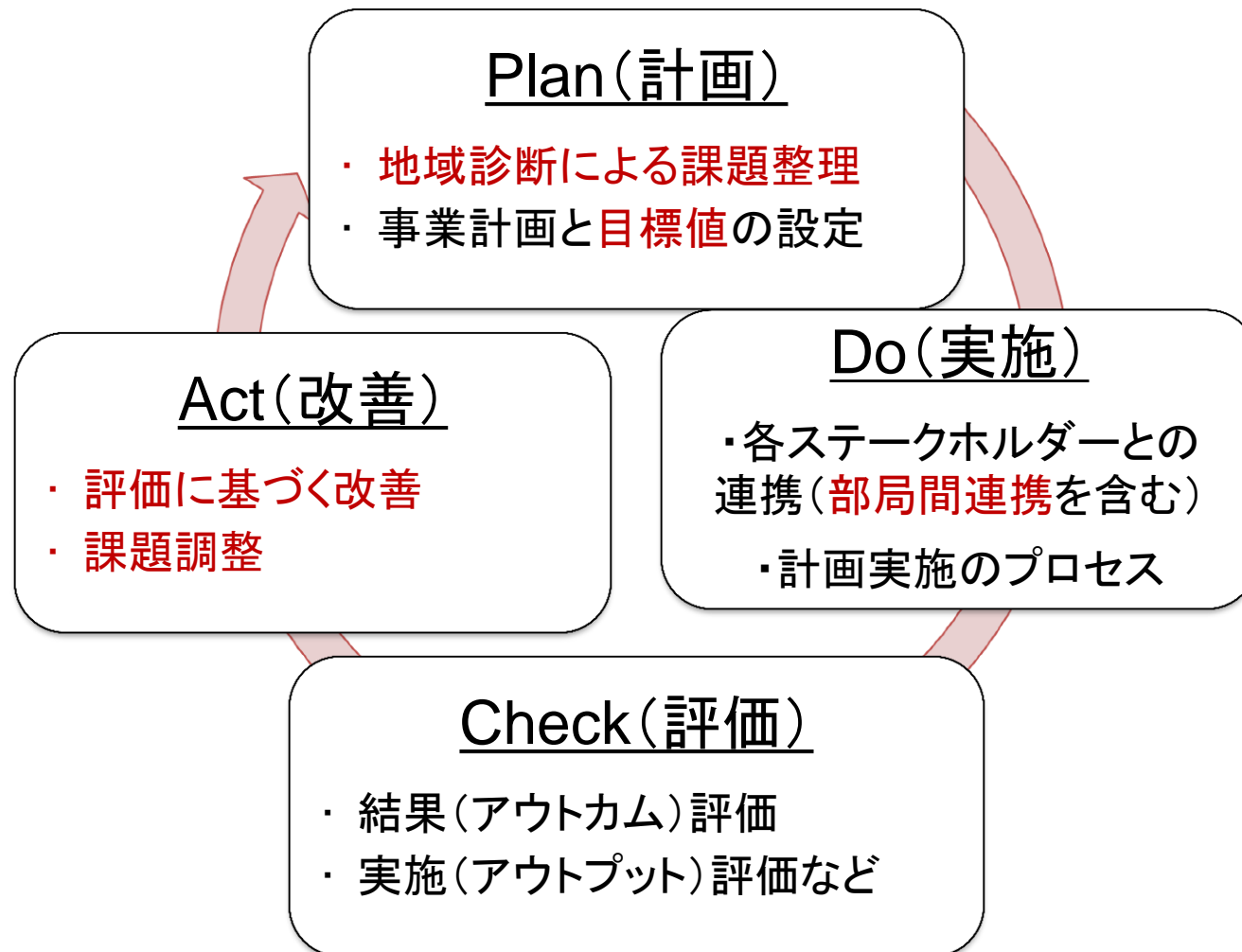
4. **PDCAサイクルを踏まえた体系的な歯科保健対策**

- 基本的事項:アウトカムとしての目標、プロセスとしての計画



健康日本21(第2次)「歯・口腔の健康」目標はすべて「基本的事項」に包含

歯科保健活動におけるPDCAサイクル



PDCA: CheckからActに至る道筋

- 中間評価の結果をもとに、目的・目標の達成度を総合的に評価し、次のステップへの改善の方向性を示す。
 - 対象集団の目指すべき姿(目的)への達成度
 - 残された課題は何か
 - 新たな課題は何か
- エビデンスに基づく保健政策の実現のために不可欠な段階



計画の軌道修正の方法

- 当初の計画のとおりにより目標が達成できていない場合

⇒原因を探る必要あり

(1) 実施すべき活動の進捗状況が遅い

→活動の実施体制の見直しを図る

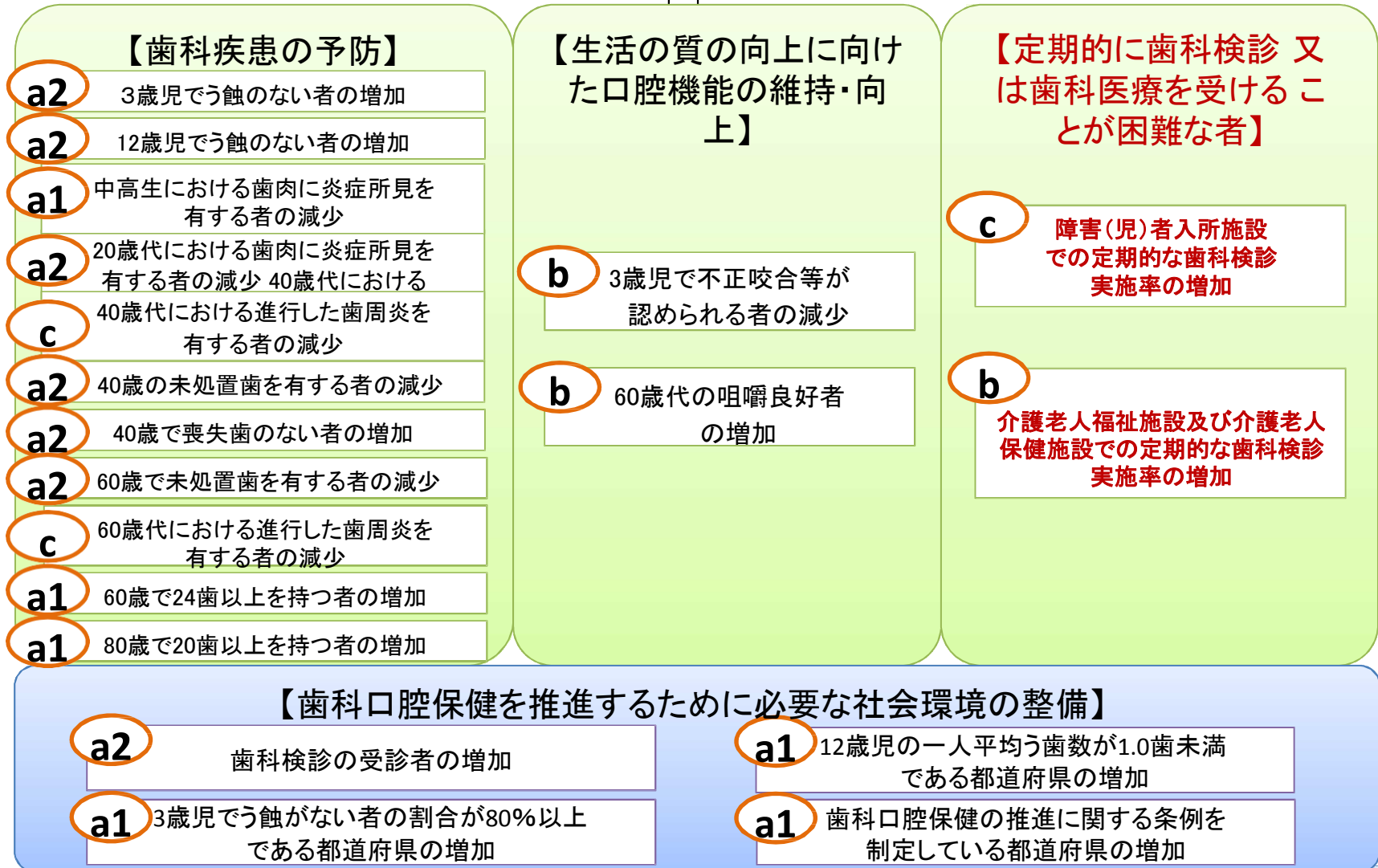
(2) 計画どおりに活動を実施しているが、結果が出ていない

→計画した活動が、目標を達成する上で適切な活動
(手段)でなかった可能性あり

⇒活動計画そのものの見直しへ

「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」中間評価・目標達成状況

口腔の健康の保持・増進に関する健康格差の縮小の実現



a1: 改善しており、目標を達成している a2: 改善しているが、目標は達成していない b: 変わらない c: 悪化している

障害者児・者入所施設での歯科検診の実施状況

・平成28年調査結果

歯科検診機会あり							機会なし	不明	総計
年1回	年2回	年3回以上	不定期	その他	不明	小計			
685	154	187	138	254	11	1429	185	18	1632
42.0%	9.4%	11.5%	8.5%	15.6%	0.7%	87.6%	11.3%	1.1%	100.0%

62.9% (H23年データと比較すると有意に低下)

※参考：平成23年度・厚生労働科学特別研究
定期的歯科検診の実施：66.9%

障害児・者施設での歯科検診・歯科保健指導以外の 予防活動の実施状況

対応の有無とその内容	施設数	実施割合
している	1497	91.7%
食後の歯磨きの時間をとっている	1363	83.5%
職員が歯磨きの状態をチェックしている	1158	71.0%
職員への歯科保健に関する研修会の開催	366	22.4%
定期的にフッ化物塗布を受けさせている	96	5.9%
定期的にフッ化物洗口をしている	40	2.5%
その他	217	13.3%
していない	135	8.3%

介護老人保健施設での歯科検診の実施状況

・歯科検診の実施 (N=510)

	施設数	%
ある	324	63.5
全くない	184	36.1
無回答	2	0.4

・歯科検診の実施頻度

	施設数
年に1回	35
年に2回	12
年3回以上	50
不定期	56
その他	161
無回答	10

年1回以上、定期的に歯科検診を実施している施設数：97 (19.0%)

↑ 有意差なし

※参考：平成23年度厚生労働科研での結果
定期的歯科検診の実施：19.2%

介護老人保健施設・職員の口腔ケア研修と 定期的な歯科検診の実施

		定期的な歯科検診の 実施		
		あり	なし	
施設内で実施	あり	220	107	P<0.05
	なし	104	77	
施設外の研修に参加	あり	163	90	NS
	なし	161	94	

施設内で口腔ケア研修を実施している施設では
定期的な歯科検診が有意に多く実施されていた

障害児・者ならびに要介護高齢者の 歯科保健サービス提供体制の改善に向けて

- 障害児・者ならびに高齢者ケア等を担当する**関係部局との連携**
- **歯科訪問診療の機会を活用した**歯科検診の実施等の柔軟なサービス提供体制づくり
 - 歯科検診だけのための歯科医師の雇用等を検討するより現実的ではないか
- 職員への歯科保健に関する**研修会の拡充**
 - 職員の意識を高める→サービス向上の基盤

おわりに

- 行政専門職には、PDCAサイクルに基づくアプローチと施策導入の効果の可視化がさらに求められる。
 - データの見える化・魅せる化
- 中間評価を踏まえた改善(C→A)が行政専門職の腕の見せ所。
 - 次の事業にどのように結びつけるか
 - これまで十分な対策がなされて来なかった分野
 - 対策を導入することにより、大きく改善する潜在的な可能性を秘めている